

様式第 2 号

視察研修先	石川県かほく市議会	氏名	佐藤 耕治
視察研修項目	公立保育施設の紙おむつのサブスク「手ぶら登園」について		
概要 石川県のほぼ中央に位置し、県都金沢市の北 20 k m に位置している。世界でも珍しい哲学の博物館と西田幾多郎博士の人物記念館があると同時に、哲学を学ぶ場、思索の場、心の安らぎ場所となっている。 人口 36,486 人 面積 64.36 k m² 定住人口増加プロジェクト 1 定住促進・子育て支援事業の取組 ① 若者マイホーム取得奨励金制度 ② 新婚さん住まい応援事業補助金制度 子育て支援事業 <u>経済的支援</u> ・赤ちゃんすくすく応援事業：3 万円の商品券 + α ・不妊治療費助成 ・不育治療費助成 ・子ども医療費助成、高校卒業まで医療費(入院・通院)全額助成 ・幼保無償化に伴う 3 ～ 5 歳児副食費無料化 ・高校通学定期券購入支援事業 <u>保育の質の向上</u> ・子ども総合センター開設 ・こども園幼児造形事業 ・こども園登降園管理システム導入 ・育児担当制保育、紙おむつ定額サービス ・母子と児童の一体化のためのこども家庭センターとこども発育相談支援センター設置 手ぶら登園を含む紙おむつのサブスクリプションは、出欠席等の連絡がオンラインでできる「CoDMON」(コドモン)を介しての保護者が紙おむつの BABY JOB(株)さんと直接契約をする仕組みとなっている。 感想・所見など 定住人口増加プロジェクトの中の公立保育施設の紙おむつのサブスク「手ぶら登園」であるが、「経済的支援」と「保育の質の向上」により市外から転入者が増えているとの実績がある。このことは、地域における子育て支援の充実・親と子どもの健康の確保・子どもの心身の健やかな成長を支える環境整備・ワークライフバランス(仕事と生活の調和)・子どもの安全確保・家庭への細やかな支援の充実が伺える。 さらに、結婚・妊娠・出産、子育て等ライフステージに合わせた切れ目のない支援の充実。紙おむつ定額サービスの実施(BABY JOB(株)と保護者の直接契約)をしており、保育士からは、毎月定額でおむつやおしりふきを使い放題なので、少しおむつがよごれたときにも気兼ねなく交換できるのはありがたいです。保護者からの「使いすぎ」という指摘を受ける心配がありませんし、子どもにとってもすごくいいことと意見がありました。利用者の多くは兄弟姉妹がいる方々でした。共稼ぎが多い現代社会ではニーズに対応した取組に共感いたしました。			

視察研修先	石川県加賀市議会	氏名	佐藤 耕治
視察研修項目	ライドシェアによる新たな移動手段の提供について		
概要			
石川県最南端、「加賀温泉郷」と言われる山代、山中、片山津の3つ温泉地、九谷焼・山中漆器などの伝統工芸、日本遺産に登録されている北前船など観光資源が豊富な市です。食文化では、ズワイガニ、鴨(伝統的な坂網猟)、ぶどう・梨、ブロッコリーが名産です。			
人口 60,538人			
面積 306km ²			
公共交通手段			
新幹線・路線バス2社・のりあい号(新幹線駅開業前)・のりあい号(スマートフォンアプリにて予約)			
ライドシェアの概要			
① 自家用有償旅客運送(令和6年3月開始)			
② 料金はタクシー代の8割			
③ 実施主体 一般社団法人加賀市観光交流機構			
④ 運行時間 7:00～23:00(金曜日、土曜日は翌2:00まで)			
⑤ 利用方法 スマホアプリ(Uber JAPAN)			
⑥ 決済 アプリ内のオンライン決済(クレジット決済、PayPay等)			
⑦ ドライバー 35人			
⑧ 安全管理／運行管理 金沢第一交通 ドライブレコーダー設置			
⑨ その他 加賀市観光交流機構がドライバーと委託契約(※雇用契約ではない)			
感想・所見など			
利用実績では、開業から2ヵ年で4,310件の利用あり、利用者の予約・支払い(決済)・稼働確認・アルコールチェック・車検証・任意保険証内容確認等スマホアプリ(Uber JAPAN)を介して行っており、現代のツールを最大限に活用している。始発場所から到着場所をスマホで入力すると料金が表示されるため、一般のお客さんやインバウンドの方々との会話が不要となり、トラブル等はないとのことでした。安全面においてもドライブレコーダーが全車両に取付けてあるとのこと。			
本市においても、交通手段の利便性の低さや運転手が不足しているとのこと。さらには、市の地理特性である多極分散都市による輸送効率の悪化(循環バス)、デマンドタクシーの利用区域制限等など。ワンコインサービスは観光客用・代行車は夕方18時以降の時間制限となっている。市民と来訪者の移動の自由に向けた取り組みとして、ドライバーと車両を総動員して、市民や観光客の誰もがどこからでも、いつでも自由かつ簡単・便利に移動できる交通体系を構築する必要性。			
また、現在のデマンドタクシー電話予約をスマホアプリ利用とすることや交通弱者に対しての交通手段にライドシェアの利用の検討が必要と言える。			

視察研修先	福井県あわら市議会	氏名	佐藤 耕治
視察研修項目	学力向上の取り組みについて		

概要

あわら市は、福井県の最北端に位置し、市の北部には北潟湖、坂井北部丘陵地、中央部には JR 芦原温泉駅と芦原温泉街を核とした 2 つの市街地を形成し、南部は田園地帯、東部は刈安山、風谷峠、劔ヶ岳を結ぶ 500～600m の森林地帯がそれぞれ位置しており、田園地帯と市街地を貫くように県下 5 大河川の一つ竹田川が流れている。平成 15 年に芦原町・金津町が合併してあわら市が誕生した。

人口 26,000 人
面積 116.98 km²

あわら市の教育
ふるさとあわら市を愛し、一人一人が夢や希望を持ち個性が輝く教育
～ふるさと愛の醸成と自らの可能性に挑戦する教育の推進～

学力向上の取組

- ① 学力向上プランの作成
- ② 全国学力・学習状況調査終了直後からの対応
- ③ 指導主事学校訪問での授業公開、研究会、個別指導
- ④ 市独自に学力調査を実施
- ⑤ 教科指導員(英語)、ICT 教育指導員、特別支援教育指導員の配置
- ⑥ 小学校英語教科担任制の導入
- ⑦ SASA(県独自の学力調査)を活用した分析と研修会の実施
- ⑧ ICT を活用した授業推進
- ⑨ ふるさと教育推進
- ⑩ 支援員等の配置
- ⑪ 中高一貫教育の充実
- ⑫ 読書による読解力向上
- ⑬ 古典学習
- ⑭ 保幼小中高連携
- ⑮ 教職員のレベルアップ

感想・所見など

全国学力・学習状況調査終了直後からの対応では、振り返り表による自己採点を速やかに実施していること。

60 歳すぎのベテラン先生が特別支援教育指導員として配置されていること。市独自に学力調査の実施や県独自の学力調査を活用した分析と研修会が実施され充実していることに驚かされた。

年間学力向上のサイクルが構築されていた、4 月学力向上プラン➡4 月全国学調市学調➡4 月～5 月全国学調独自分析➡5 月～7 月授業改善➡7 月～8 月学調結果➡8 月再分析➡9 月～12 月授業改善➡12 月県独自の学調➡12 月～1 月再分析➡1 月～3 月授業改善となっている。

3 学期制から 2 学期制をとっている、県内では約半数が 2 学期制。

福井県は学力水準が高いと言われている理由として、高い同僚意識・協働する授業づくり・多様なつながりの場・共通の価値観の共有➡ぶれない指導・オーダーメイドの計画が挙げられる。

このことは、生徒・父兄・教師が認識し、教育向上に向けて取り組んでいることに感銘した。